

平成29年度 北海道大学大学院医学院博士課程入学式告辞

皆さん、北海道大学大学院医学院博士課程への入学、おめでとうございます。教職員一同を代表してお祝い申し上げますとともに、皆さんを心から歓迎いたします。

北海道大学大学院医学院の前身である医学研究科は新制大学院制度の発足に伴って昭和30年に設置されました。その後、平成12年に大学院重点化が行なわれ、従来の学部を中心とした教育研究組織から大学院を中心とした教育研究組織へと移行し、大学院における教育と研究の充実を図りました。

そして平成29年4月、北海道大学大学院医学研究科は、変化の著しい社会のニーズに応える人材を機動的に輩出するため、これまで教育組織と研究組織が一体であった「研究科」を大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。すなわち、学院での教育は複数の研究院および附置研究所等の教員が担当できるようになり、研究領域に縛られることなく教育資源の再配分を可能にしました。この新システムの導入により、社会が要請する新たな教育を実施する場合、教員組織再編を伴わずに迅速に教育組織を設置することが可能になりました。

医学院の理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献」を掲げ、医学・生命科学・社会医学（公衆衛生学）に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。

博士課程は、1専攻、3コース制をとっており、専門分野の枠を超えた教育に重点を置くとともに、コースごとに高い専門性が担保されるようにカリキュラムを工夫しています。具体的には、医学研究者・研究医を育成する「基盤医学コース」、社会医学および公衆衛生行政の分野で活躍する人材を育成する「社会医学コース」、高度な臨床研究を遂行する人材を育成する「臨床医学コース」の3つがあります。

本学院では、特に減少が懸念されている基礎医学研究者・教育者を育成するため、2009年度より医学科出身者を対象として「MD・PhD コース」を導入いたしました。このコースでは、医学部6年生から大学院授業科目を履修することができ、条件を満たせば大学院を3年間で短縮修了することができます。また、2013年度からは新たに「CLARCプログラム」を開始しました。臨床研修2年目に大学院に進学し、臨床研修と同時に大学院での学修をスタートさせるプログラムです。

今日の医学・医療の進歩には目覚ましいものがありますが、これらの進歩は過去の研究の成果に基づくものです。今日の研究無くして、明日の医学・医療の進歩はありえません。しかしながら、最近、我が国の大学では大学院への入学者が減少し、医学・医療の未来を担う若手研究医、若手研究者が減少するという憂慮すべき事態が発生しています。この背

景には、新臨床研修制度の導入により大学で研修を行う若手医師が減少したことがあります。今後、さらに専門医制度の見直しにより、状況の更なる深刻化を招きかねないと懸念されているところです。このような状況の下、皆さんが博士課程に進学する道を選択されたことに対し、心より敬意を表したいと思います。研究者として活躍される方はもちろん、真に力量ある専門医として活躍されたいと思っている方にとっても、そしてまた、他の高度専門職業人を目指している方にとっても、本研究院博士課程において最先端の研究に触れ、自ら研究に携わることは、一生の財産になると確信しています。

皆さんには、博士課程在学中に、研究立案遂行能力のみならず激変する社会の変化に対応できる資質と能力を高め、挑戦することに努めていただきたいと思います。自信があるから挑戦するのではなく、自信を得るために挑戦し続けるのです。皆さんが立派な研究成果を挙げて博士号を取得され、医学の発展を担う研究者、医療の第一線で指導的役割を担う臨床医、あるいは高度専門職業人として将来、巣立っていかれることを祈念して、私の告辞とします。

平成29年4月3日

北海道大学大学院医学院長 吉岡 充弘